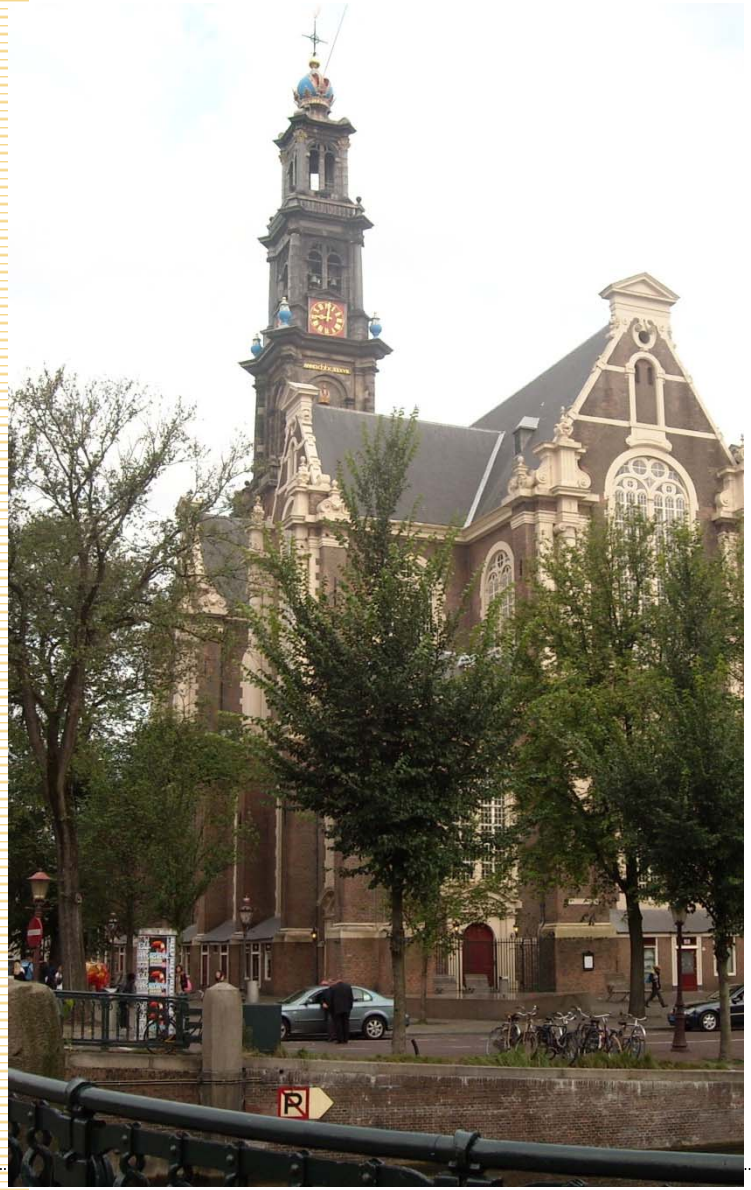
子供が最も幸せな国
オランダの教育事情

オランダの概要



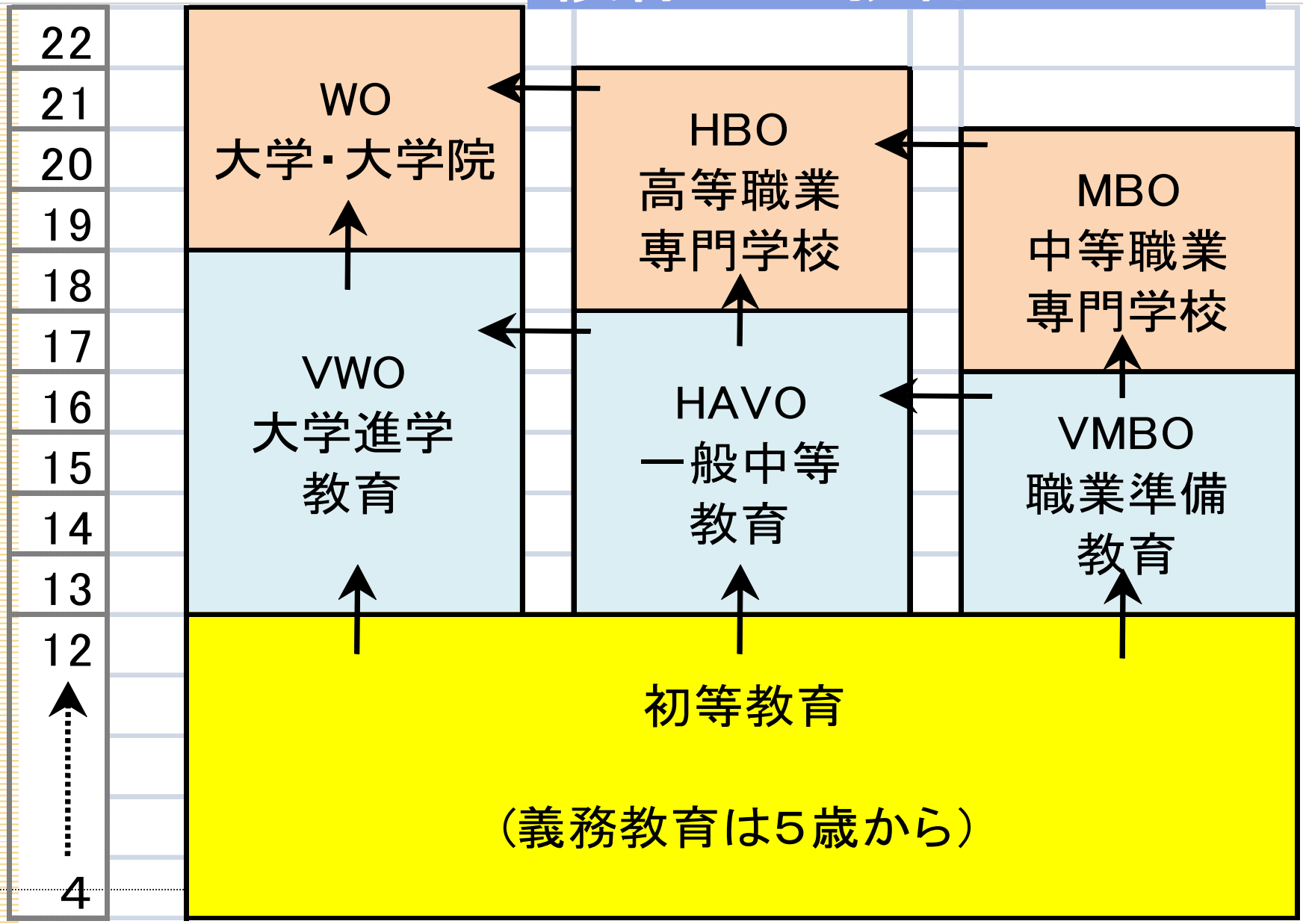
面積約4万km^2（ほぼ九州と同じ）
人口約1640万人

憲法23条「教育の自由」

「学校創設の自由」
「学校方針の自由」
「学校組織の自由」

が保障されている。

複線型の教育システム


22
21
20
19
18
17
16
15
14
13
12
4
WO
大学・大学院
HBO
高等職業
専門学校
MBO
中等職業
専門学校
VWO
大学進学
教育
HAVO
一般中等
教育
VMBO
職業準備
教育
初等教育
（義務教育は5歳から）

財政の平等と学校のニーズに基づく予算

～公立・私立も財政的に平等～

●前任校は、24カ国の子供が在籍し、それが、優先的な予算措置に連動。

●保護者のバックグランドは多様化しており、そのことが予算に反映される。

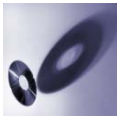
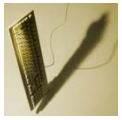
●そのため、朝6時から子供を預けられる仕組みもある（保育士による）

Michielde de Ruyter校長）

出口保証の動き

- 「教育の自由」を謳うオランダにおいても、「教育の質の保証」を求める動き
- オランダでは、「出口管理」による質の保証
- オランダ文部科学省（OCW）による、”Core Objectives” の提示
- 小学校では、2008年に改定された際に58個へ大幅に増加

Core Objectives　オランダ文部科学省編(Min OCW)

Core Objectives Primary Education（小学校）

- オランダ語（国語）(12)
- 英語(4)
- フリジア語（オランダ北部の言葉）(6)
- 算数／数学(10)
- 生活＆ワールドオリエンテーション（総合）(19)
- 芸術／美術(3)
- 体育(2)

Core Objectives Lower Secondary Education
初期中等教育（中学校）

- オランダ語（国語）(10)
- 英語(8)
- 算数／数学(9)
- 人と自然（自然科学）(8)(自然や科学に対する視点、観察眼）
- 人と社会（社会科学）(12)(社会や歴史に対する視点）
- 芸術と文化 (5)
- 体育とスポーツ(6)
- フリジア語と文化(6)

教育の自由を尊重しながらも、中央政府によるコントロールメカニズムが機能

①4歳以上の子供の就学義務

②カリキュラムは「社会的関連性」があり、「現代的で」あり、教育的に「健全」であること

③年間の授業単位数他、1日の就業時間の規定（公費助成の要件）

④「修了試験」「全国共通試験」（CITO）の実施

⑤義務教育段階のすべての学校で監査。

⑥情報開示とクオリティーカードの発行

パルナシア小学校

●サントポールト北（20校）にはビゴツキー学校は1つ。

●ビゴツキー理論を大切にし「自分らしさを表現すること」を重視

●子供たちの教育で最も大切にしているのは

①エモーションフリー

②好奇心、自信をもつこと、

③自己肯定感

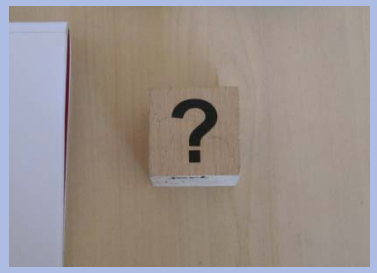
パルナシア小学校の子供たち

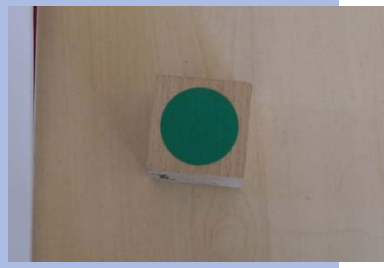
・教科は、国語、算数・数学が主で、ほかはワールドオリエンテーション（総合的な学習）で実施。

・子供たちは、朝のうちにその日に行うことを話し合う。

・その後、それぞれの子供がキューブを使って作業学習（1週間の計画に沿って）

・その間にミニレッスン（国語、算数・数学）を適宜入れていく。





授業観察を通じて･･･

「あなたの考えを聞かせてほしい」「それはなぜ？」

→・読み取ること
・ロジカル・シンキング
・コミュニケーションを通じた課題解決
の重視

- 椅子とテーブルのみの職員室
- チームによる教材研究
- 明確化された教師の職務

詰めの甘さは課題
（日本で言う「基礎・基本」？）

Michielde de Ruyter 授業を観察して

「私の助けは必要？」

→・学習の自立から
・学習の自律へ

教師のかかわり方
・丸抱え？
・プロセスを作らせる？

授業における教師の役割は何か？
＜低学年を担当する3名の先生＞

自分で判断し、計画を立て、実行していくという基本を作らないとダメ。その基本を作るのが低学年の時期。

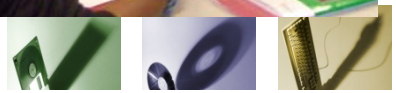
知識は大事だけれど、社会的なスキル、安全がもっと大事。お互いの思いやりを含めた社会的なスキルが必要。

自分一人でどうするかを考えさせる。できないと思ったらそれを助ける質問をする。それでもできないと思ったら、最後に教える。

Helen Parkhurst Openbare Dalton School

Instruction
(15～30分×４～５回)

自分の計画に
沿って学ぶ。



アシスタントティチャーの実習

ダルトンスクールの先生たち
「教師の役割はなんですか？」

低学年を担当する先生

・「自分で選択ができる」「独立心を養う」ことを大切にしている。ガイドは教えるけれど、上から教えることはしない

高学年を担当する先生

・できない子には「うまくいっていますか」と状況を聞き次に「どうやったらうまくいくと思うか」と問う。最後に「では一緒にやってみよう」と働き掛ける。
・Whyと考えさせる時間が多かったが、今は分かったことをトレーニングすることも大事にしている。

Dalton Den Haag Gymnagium

・教える授業は少ないが、個人へのコンタクトは多く

・教科ごとのアサインメントをダルトンアワー（2H/1日）で学習
・自分の学習に「責任を取る」ことを重視

日本からオランダの教育を見て

- どの教室にも見える「個の学び」「協働の学び」「自律的な学び」
- 「子供を育てる」ことと「自ら育っていける子供を育てる」ことは両方必要
- チームとしての教員集団
- 教育を受ける前の格差は排除するという考え方
- 異質なものへの寛容さ